

第157回免疫系発生学セミナー 大学院特別講義  
新学術領域「免疫四次元空間ダイナミクス」共催講演会

# 松田 達志 博士

関西医科大学附属生命医学研究所 生体情報部門

## mTORC1を介した 免疫制御

2014年10月2日 木曜日

17:00 - 18:30

疾患プロテオゲノム研究センター  
1F 交流ホール

mTORは栄養環境を感知して代謝を制御するセリン/スレオニンキナーゼであり、特に細胞増殖を調節する役割は、酵母から高等動物に至るまで高度に保存されている。mTOR (mammalian target of rapamycin) の名前が示す通り、T細胞の増殖を強力に阻害するラパマイシンの標的分子として同定された経緯を持つため、mTORが果たす役割がT細胞の増殖制御に限定的であると勘違いされることが多いが、近年の解析から、mTORが多様な免疫担当細胞の機能発現に関わっていることが明らかにされつつある。本セミナーでは、mTORシグナルの中でも特にmTORC1経路に焦点を絞り、T細胞・樹状細胞・B細胞の3種の免疫担当細胞においてmTORC1経路が果たす役割を紹介したい。

問合先: 疾患プロテオゲノム研究センター生命システム形成分野/大学院医科学教育部免疫系発生学  
高浜 (x9452, takahama@genome.tokushima-u.ac.jp)